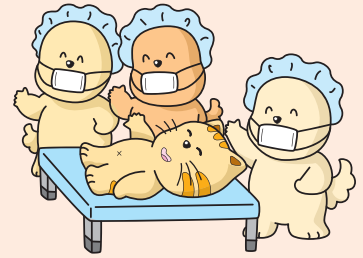


母と子のにわ

—利用者のみなさまと大阪母子医療センターをつなぐ—



vol.45 2020年 11月

新型コロナウイルス対策を継続しましょう

最近の動向

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) が世界中で流行し、日本でも3～5月の第1波のち緊急事態宣言が解除されましたが、7～8月にふたたび患者数が増加しました。この後半の流行では、小児例も増加しましたが、感染経路としては家族内感染が多く、また、重症例もほぼありませんでした。一方で、60歳以上の年代では、集中治療室の入室率や人工呼吸器の導入率が非常に高くなり、さらに年齢が高くなるに従って致死率も高くなっており、高齢者や基礎疾患を持った方々は依然注意が必要です。社会全体で感染を拡げないための対策と工夫を今後も継続する必要があります。

濃厚接触とならない、つぐらない

このウイルスに対しては、飛沫感染、接触感染対策が重要ですが、症状が出現する前から感染力があるとされ、無症状でも自身や目の前の人感染している可能性を念頭に置かねばなりません。「濃厚接触とならない、つぐらない」ように常に意識する必要があります。マスクの着用、手洗いの励行、ソーシャルディスタンスを確保し、なるべく密閉、密集、密接のいわゆる「3密」を作らないよう心がけましょう。また、自身の健康管理を十分に行い、体調が悪い場合には仕事や学校を休むことも大切です。

感染予防対策の継続が大切です

これから冬に向け、例年ですとインフルエンザの流行を迎えます。早めにインフルエンザワクチンを接種することが推奨されています。新型コロナウイルスとの同時感染によるリスクを減らし、症状から区別がつかない両者の同時流行による治療の複雑化や医療への負荷を減らす必要があります。また、インフルエンザワクチンによる免疫効果が、新型コロナウイルスの重症化や死亡率に対してもプラスに作用する可能性もあります。マスクなどの新型コロナウイルス対策が功を奏しているのか、冬を過ごした南半球の国々も含め、さまざまな地域でインフルエンザ患者が激減しています。引き続きこれらの対策を継続し、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスの流行を防ぎたいものです。

(新生児科・感染症科 野崎 昌俊)

和泉市と連携協定を締結しました

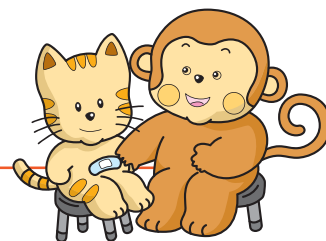
当センターは、本年9月25日(金)に、和泉市と「親子の健康と健やかな成育支援に関する連携協定」を締結しました。

「親子の医療・健康保持に関すること」や「母子保健・小児保健・学校保健に関すること」などについて連携強化を目指します。



大阪母子医療センター 倉智総長
和泉市 辻市長

ていしんしゅう 傷の小さい低侵襲手術

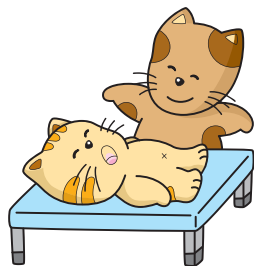


ていしんしゅう 低侵襲手術ってなに？

最近の小児に対する手術では、できるだけ傷を小さくする努力が払われるようになってきました。手術の傷跡を目立たなくするという美容的な目的だけでなく、小さな傷から手術を行うことで術後の痛みを軽くし、手術による侵襲をできるだけ小さくして術後の回復を早める目的があります。内視鏡手術を含めたこのような「傷の小さい低侵襲手術」では、従来の手術法に比べて術後の癒着が少なく、腸閉塞を起こす危険性が少なくなるという利点があります。しかし、最優先されるのは安全で確実な手術によってしっかりと病気を治すことです。「傷の小さい低侵襲手術」に固執することで安全性や確実性が損なわれては本末転倒です。私達は「安全で確実」と「低侵襲」とのバランスを考えて手術法を決めています。

どんなふう to 手術するの？

「傷の小さい低侵襲手術」には、内視鏡手術とお臍を利用する手術があります。内視鏡手術では、内視鏡という細いカメラを身体の中に入れて、モニターで体内を観察しながら細い道具を使って手術を行います。お腹の中の「腹腔鏡手術」と胸の中の「胸腔鏡手術」があります。お臍を利用する手術では、元々しわの多いお臍の中や周囲のしわに沿って皮膚切開するので、術後の傷跡がほとんどわからなくなります。また、新生児や乳幼児では皮膚や筋肉が伸びやすいので、お臍の小さな傷からでもお腹の中の広い範囲の操作が可能です。



病気ごとにどう使い分けるの？

内視鏡手術は鼠径ヘルニア、虫垂炎、胃食道逆流症、腫瘍、腸重積、腸回転異常症、メッケル憩室、高位鎖肛、食道閉鎖症、横隔膜ヘルニア、のうぼうせいはいしっかん、はいぶんかくしゅう、お臍を利用する手術は虫垂炎、小腸閉鎖症、十二指腸閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、中腸軸捻転、卵巣嚢腫などに用いられます。ただし、同じ病名でも病状や状態によって異なるため全ての患者さんに適応できるわけではありません。「傷の小さい低侵襲手術」は、これから成長・発達をとげて、未来へと生きていく小児にこそ最も必要とされている手術なのです。



(小児外科 臼井 規朗)

第11回

きっずセミナーを

～未来のきみへ 病院のお仕事 2020～

オンラインで開催しました

当センターでは、未来を担う子どもたちが、楽しみながら職業体験することにより、自分の将来について考える機会になってほしいと2010年から「きっずセミナー」を開催しています。新型コロナウイルス感染拡大のため、第11回の今年は開催が難しく思われましたが、毎年楽しみにしてくれている子どもたちに、こんな状況だからこそ何か別の方法で実施できないかと考え、オンラインで開催することにしました。

8月22日(土)、23日(日)、29日(土)の3日間で5コースのオンラインセミナーを開催し、全国から49名の子どもたちが参加してくれました。心配された接続の問題もほとんどなく、アンケートには、コロナ禍で様々なイベントが中止の中での開催に対して感謝の言葉や、オンライン開催についても、家族みんなで一緒に楽しめて良かったなど嬉しい感想が多数寄せられました。また、「看護師さんって色々なことやるんやなあ」と子どもたちの医療職への興味も増したようでした。

今後も、たくさんのお子たちに喜んでいただけるよう、更に工夫改善してまいります。



医療技術者コース

マイナープロフェッショナル
～医療とくらしを繋ぐ仕事～



栄養士コース

病院の栄養士さんの
お仕事



看護師コース

集まれ！
病院探検隊



助産師コース

親子で話そう！
いのちの話



臨床検査技師コース

新型コロナウイルス
～知ってみよう、見てみよう、PCR検査～



\\ 新しい受診スタイル //のご案内

当センターでは、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、以下のような取り組みを行っています。

- 消毒液の設置
- 面会者と同室者の方に、防災センターにて検温と問診票の記入を実施
- 料金あと払いシステム（メディカルゲート）の導入

患者さんにはご来院の際、以下のことをお願いしています。

- お支払いの際はソーシャルディスタンスを保つ
- マスクの着用
- 少人数でのご来院（同伴者は2名まで）
- メディカルゲートの利用

検温



消毒液の設置



マスクの着用



少人数でのご来院



ご面会について

■ 母性棟

- 1日1回(30分)1名(週2回まで)です。
- 夫(パートナー)が面会できます。
- 夫(パートナー)は出産に立ち会えます。

■ 小児棟

- 12～20時の間に面会が可能です。
- ご両親は面会できます。

(2020年11月1日現在)

大阪母子医療センター 医師・栄養士監修

材料(2人分)

- さつまいも・・・140g
- レモン・・・スライス1枚(10g)
- レーズン・・・大さじ1弱(10g)
- 砂糖・・・大さじ1と小さじ1/3(10g)



さつまいものレーズンレモン煮

さつまいもの甘さをレモンの酸味で引き立たせた一品です

秋が旬のさつまいもは、食物繊維、ビタミン、ミネラルの宝庫です。

また、さつまいもに含まれる特有のヤラピン(切り口から出る白い汁の成分でヤラピノール酸とオリゴ糖で構成される)という物質は、胃の粘膜保護、腸の蠕動促進、緩下作用があり、豊富な食物繊維との相乗効果で便秘の予防改善に効果的です。

シンプルな焼き芋や菓子、総菜、汁の具など、幅広い料理に使える食材ですね。皮にもカルシウムやポリフェノールが豊富ですので、皮ごと食べるとよいでしょう。

(栄養管理室)

- 1 下ごしらえをする さつまいもは皮つきのまま1.5cm厚さの半月切りにする。レモンはいちょう切りにする。
- 2 煮る 鍋に1を入れ、ひたひたになる程度に水を入れる。砂糖を加えてさつまいもが軟らかくなるまで煮崩れないよう、中火で煮る。
- 3 盛り付ける さつまいもが軟らかくなったら火を止める。

大阪母子医療センターの医師と栄養士による食育レシピ「こどもの心と体の成長・発達により食事」妊娠期・乳児期」P.50に掲載されています

⚠️ 新型コロナウイルス感染拡大防止に関する最新情報はホームページでご確認をお願いいたします

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

電話 0725-56-1220

FAX 0725-56-5682

<https://www.wch.opho.jp/>

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・ 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・ 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・ 地域と連携して母子保健を充実させます
- ・ 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます